

# NEXT21自然のたより

## 2012年10月



No. 10

2012年10月2日

### 1. ヒガンバナ (ヒガンバナ科)

「赤い花なら曼珠沙華(マンジュウシャゲ)」と歌われたヒガンバナが NEXT21 空中街路5F に咲いていました。

名前の通り毎年お彼岸の頃に咲く花ですが、今年は残暑の影響か幾分遅めで、9/25 蕾の多い状況でした。

田舎で畦道や土手に良く咲いているが、通常は食べないものの、食料不作年には球根を**救荒食**に利用するためだったとのこと。



ヒガンバナは「**葉見ず花見ず**」or「**花は葉を見ず・葉は花を見ず**」と言われるが、9月花の季節に葉が無く、花が終わった晩秋から春まで葉を茂らせていて、花と葉が同時期に見られないことを示しています。(続き P-5 最下欄に)

## 2. ハイイロチョッキリ(チョッキリゾウムシ科)

8月～9月、コナラなど里山の林を歩くと、葉が数枚、ドングリが1～数個つき、切り口がスパッとナイフで切ったかと思われる小枝があちこち落ちています。このコナラのドングリを落とす犯人は、体長1cmにも満たない小さな甲虫の仲間ハイイロチョッキリです。



### ハイイロチョッキリが NEXT21 屋上庭園にも

NEXT21 屋上庭園にコナラの大きな木が何本かあるが、その木の下一円(屋上庭園～階段)に、小枝が落ちていました。

ハイイロチョッキリは、8～9月まだドングリが青い実の頃、皮が軟らかい殻斗から卵を産みつけ、そのドングリの小枝を「チョッキリ」と切り取って地上に落とします。ドングリの中で生まれたハイイロチョッキリの幼虫はドングリの種子を食べながら大きくなり、食べつくすとドングリから出て、土に潜り込み、蛹になります。

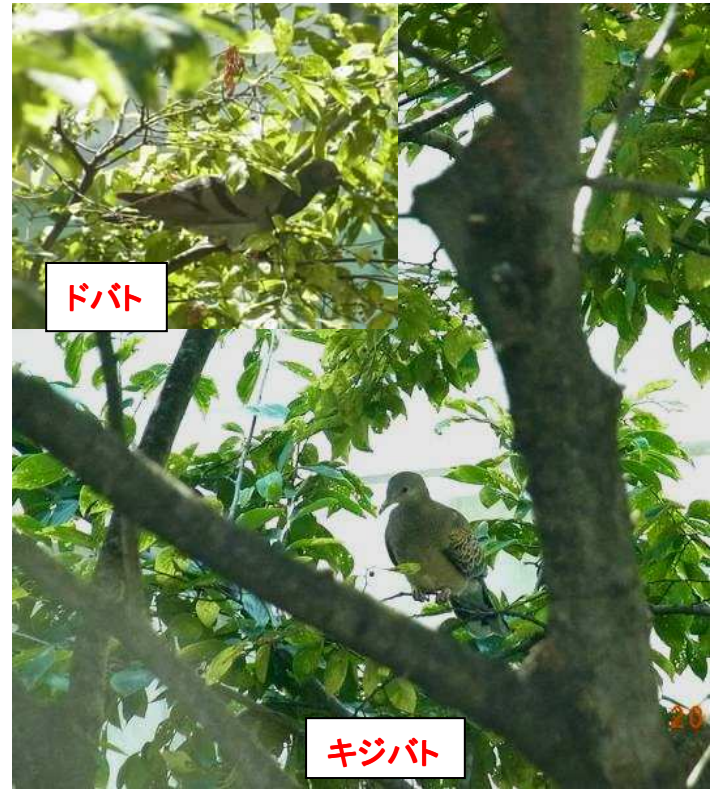
3枚組写真右下は、ハイイロチョッキリがコナラのドングリに卵を産んだ時の孔跡、9/25 ドングリを開いてみると、右上のようにチョッキリの幼虫が出てきました。



### 3. エノキ(ニレ科)

#### ①大木は鳥の憩いの場

エコロジカルガーデンの日本野鳥の会事務所の入り口にあるエノキは、NEXT21の木の中でも、最も大きな木の一本です。樹高が3階部分まであり、樹冠を大きく広げ鳥たちの憩いの場となり、スズメ・ヒヨドリ・キジバト・ドバトなどが次々訪れています。一番多いのはスズメ、初夏に子スズメが親鳥の運んで来る餌を待つ休憩所となり、夏はドバトが緑陰に休んでいます。



#### ②液果は果肉のみを食べる鳥を歓迎



8月頃エノキの実が橙色に実ると早速、鳥が実を食べに来るが、9/4 エノキに来て実を啄んでいた鳥は、キジバト・ドバト・ヒヨドリでした。

先月書いたように、液果は鳥に種子分散を依存しており、実が食べられてもいい時期になると、色づいて合図します。しかし液果が食べてほしいのは果肉部分のみで、中にある種子部分まで食べる鳥は歓迎していません。

ヒヨドリは果肉だけを食べる鳥なので大歓迎ですが、ハトは果肉だけでなく、種子も消化してしまう鳥なので、液果にとって来てほしくない鳥です。しかし、キジバト・ドバトなどハトの仲間は木の実が大好きで、地上を歩いているときも木の実(種子)を探しています。

自分で動けない植物は種子分散方式をいろいろ開発しており、液果は**果肉だけ**を食べてくれる鳥に依存する戦略を取っています。鳥もいろいろ、**種子部分の高栄養価**に目を付けた鳥もいます。植物は思い通りにいかななくても、トータルで繁殖能力が確保できれば良いとして、実を多くつけることで対応していると思われれます。

## 4. ヤマボウシ(ミズキ科)



### ①赤い実は鳥を待つ

ヤマボウシの白い花が満開だったとき(6月号)、「ひもじい思いをしていた小学生には、ヤマボウシの実がおいしく最高のおやつであったので、9月は童心に返って、実を賞味してみたい」と書きました。

そのヤマボウシ、予想以上に良く実り、鳥があまり食べに来ないためか、

熟した実が NEXT21 の入り口付近にたくさん落ちていました。

### ②鄙びた味の実態

童心に返り幾つか拾って食べて見たところ、

①甘味が少ない ②種子が多い ③口に滓が残る

等、自然児を自称していても砂糖の甘さを慣れた現在の私には「鄙びた味」を賞味し続けるほどの旨味・魅力もなく、試食のみで終わりました。

### ③ヤマボウシ(山法師)の由来

花の形状からつけられたもので、丸いつぼみの集まりを坊主頭に、花に見える白い4つの総苞片(そうほうへん)を頭巾(ずきん)に見立てたものです。



## 5. ヤブランなど

### ①ヤブラン(ユリ科)

NEXT21 の IF エコロジカルガーデンや屋上庭園にヤブランが植栽されており、紫色の房状の花が咲いています。

ヤブランや近縁のジャノヒゲは木の根元にグランドカバーとして

植えるとふんわりした緑地ができるので、公園や庭園の樹木の周りに良く植えられています。

ヤブランはランと言ってもユリ科植物、自然界では山地の木陰に生えているがそれほど多くないので、今では公園の遊歩道沿いなどに植栽されているのを見ることの多い野草です。

公園でヤブランを見ると、子供の頃近縁**ジャノヒゲ**の実を竹鉄砲の弾にした楽しい記憶を思い出します。ヤブランの実があればもっと強い弾だった筈と、今になって残念がっています。



### ②ヒガンバナ(P-1 続き) 曼珠沙華

曼珠沙華は法華経などの仏典に由来し、天上の花という意味があるようです。

冒頭の「赤い花なら曼珠沙華」は戦後間もない頃の歌「長崎物語」の一節ですが、歌詞の続きに「阿蘭陀屋敷に雨が降る」とあり、曼珠沙華には何となく異国情緒が漂ってくる思いがします。

しかし、インターネットでは山口百恵さんの「曼珠沙華」が出てきます。読みも違うようですが、どんな世界を思い出されるのでしょうか。

